

しょうがいしゃから子どもを奪った
時代は終わったのでしょうか？



くじら工房の利用者の皆さんの作品

1948年から1996年の間「優生保護法」という法律によって、強制的に子どもを作れない身体にさせられたしょうがいしゃがいました。今年の1月30日にこの強制不妊手術をされた60代の女性が国家賠償請求訴訟をおこしました。その後次々に、男性も含め訴訟への動きが高まっています。

今考えるとなんて酷い人権侵害だ！ と思いますが、この法律ができたときには、このための予算が消化されないからと、児童養護施設等の子どもたちにこの手術を受けさせるように名前をあげさせた記録もあるとのこと。ハンセン病患者が同じことをされていたことは知られていますが、知的しょうがいのある子どもたちもその対象だったことは知られていませんでした。

そこで考えるに、このように強制的に行われたこ

とについては「酷いことを！」となりますが、果たして今の私たちもこのように考えることがないでしょうか？ 強制的にはしないまでも、しょうがいしゃが恋愛したり、結婚を望んだり、子どもを作ったりすることを、どこか遠回しに否定していないでしょうか？ しょうがいしゃの人権は「差別解消法」に基づき「意思決定支援」が求められているのに、実際に支援の現場では旧態依然とした価値観がまかり通り、しょうがいしゃの人権は標語のように飾られているだけになっていないでしょうか？ その人のためと言いながら、実は支援が大変で、できないからと最初から諦めさせることをしていないでしょうか？ それはモラルハラスメント、精神的虐待です。人権とは何か？ 日々問い直す支援者でありたいものです。(理事長 遠藤良子)

facebook ホームページ
見てね！

サービス休止のお知らせ
9月29日(土)は、
職員全体研修のため
お休み致します。
ご迷惑おかけします。

★職員の異動★

入職者 大島 穂枝さん (はじめての一步ハウス) 2018. 7. 1付

退職者 玉寄 史也さん (とれいる) 2018. 6. 30付

居宅介護等事業・訪問介護事業

くじらハウス

Tel 042-505-7034
Fax 042-505-7035



次なる目標は…

くじらハウスが仮移転してから早くも半年が経ちました。仮移転中のハウスで初めての夏を経験している今日この頃です。日当たりが良すぎるのも考え物ですね。暑くて仕方がないです。さて、話は変わりますが、自分は介護福祉士の資格を取ってから3

年ほど経ちます。資格の勉強をしていた頃は、1年間資格を取るという目標のために、定期的に勉強して必死になっていました。だが現在、何かを必死になり1年間継続するものがあつたか？と考えた時に、何もないことに気づき愕然としました。仕事が終わって、家に帰って、大河ドラマを観ながら夕飯を食べ、風呂に入り寝る。これがルーティーンになるのはよろしくない！でもあれ？大河？何かを1つやり続けることにはそれ相応の覚悟や信念が必要な時もあります。大河ドラマは1年間放送している。ああ…これですね。まず軽いところから1年間大河ドラマ「西郷どん」を観続けることを目標にやってみようかなと思います。(中川)

生活介護事業所

くじら工房

Tel/Fax 042-843-3450

研修の受け入れ



生活介護事業所になってから2年目、今年度も東京三菱UFJ銀行の研修生を迎え、お祭りの出し物を考えてもらいました。

利用者とペアを組んでのボーリングは誰が優勝

するか予測できない接戦となりました。YMCA 介護福祉専門学校1年生の初めての実習では、利用者の皆さんがリードして、緊張のほぐれた充実した学びの場となったのではないかと思います。七生特別支援学校と武蔵台学園の高等部3年生の現場実習では、小中学生の時の可愛らしさから一歩大人になった生徒さん達の貴重な時間を一緒に過ごすことができました。

昨年、歯科講習にきて下さっている国立市の歯科衛生士さんには、毎年気さくに対応して下さい、終始和やかな時間を過ごせました。(三浦)



個性豊かなアート作品を生かした生産品販売します！

木曜日だけ開いていたアトリエ。講師のご好意によって月1回金曜日も



行うことになり、より多くの個性豊かな作品を見ることができるようになりました。ボランティアさんの協力で、利用者さんのアート作品を生かした生産品販売を始める予定なので、今後、注目していただけると嬉しいです。



たまりば宙の催し

てぬぐいで
あずき袋
を作ろう！

買い物バッグやお弁当入れになる可愛い袋を手縫いします！

と き 9月29日(土) 14時～
ところ たまりば宙
講師 望月妙子さん(宙スタッフ)
参加費 500円
持ち物 てぬぐい又は、縦30cm×横90cmの布
要予約 ☎042-843-0443

特別なこと求めてはいない

～障害者権利条約とジョグジャカルタ原則～

今年の6月、WHO(世界保健機関)によるICD(国際疾病分類)の約30年ぶりの改訂で、性同一性障害が精神疾患から削除された。ジェンダー・アイデンティティ・ディスオーダー(性同一性障害)という概念は消滅。医療ケアにアクセスするための診断コードは新たに作られたが、既に性別変更手術/ホルモン療法/診断書の提出を要件としない国々も多い。だが、現在の日本では、生殖腺を取り、性器の外観を変える手術を受けていないと戸籍の性別変更が認められない。そんなのは強制不妊・強制断種と同じであり、自己決定権の侵害だと国内外から批判されている。生誕時に割り振られた性別とは異なる性同一性を持って生きる人(トランスジェンダー)が皆手術を望む訳ではなく、子どもを産むトランス男性もいるのが現実であるのに。

以上をわたしが知るようになったのは、あるトランス女性のトークイベントやSNSでの情報発信に負うところが大きい。彼女からは、ジョグジャカルタ原則(注1)のことも教えてもらった。ところで、わたしがジョグジャカルタ原則を読んで真っ先に思ったのは、障害者権利条約にとてもよく似ているということだ。障害者権利条約は、2006年、国連総会において採択。ジョグジャカルタ原則は、2007年、国

連人権理事会において採択。

両方とも、特別なプラスアルファを求めてはいない。しょうがい者が、あるいは性的マイノリティが、人間として平等な「ゼロ地点」(注2)に立つことを目指している。それを得ていない歴史と現状があるから。得ていないばかりか、更にマイナスへと押しやられたり、遥かゼロの後方から少しも進めない構造になっていたりするから。

さて、ここまで書いて何日か続きを書きあぐねていたら、思いがけないニュースを見て、気持ちが明るくなった。お茶の水女子大学が2020年からトランス女性を受け入れる方針にしたそう。ごく身近なところでは、市内公立小学校の通常級で授業を受けることを希望している児童が、しょうがいがあることで、ちっともすんなりそうは事が進まず、苦労を重ねている。という現在進行形の出来事があるが、ご家族の熱意があり、応援者も広がってきているから、それも、きっとこのままにはならないだろう。その子とその子の周りの子どもたちは、大人になったとき、「いま」をどう振り返るのだろう。「わたし」や「あなた」は、人生の最期に、何を求めるだろう。(白川)

(注1) ジョグジャカルタ原則の正式名は、「性的指向並びに性同一性に関連した国際人権法の適用上のジョグジャカルタ原則」。2017年11月に追加文書が公表された。

(注2) 「私たち抜きに私たちのことを決めないで～障害者権利条約の軌跡と本質」(やどかり出版、2014年)で、著者の藤井克徳氏が「ゼロ地点戦略」を唱えています。

6/2
(土)

平成最後の今年、すうえる&とれいるは



5周年を迎えました。もう5年? いや、まだ5年? 月日が経つのは早いけれど、未来へ想いを馳せると、無限の可能性を感じます。「わっしょい祭り」も、早くも4度目の開催です。今年は趣向を変え、バザー中心だった売り物を、入居者が通っている職場で

作った作品と、くじら工房の製品を中心に玄関横に並べてみたところ、遊びに来てくれた多くの人々が手を取ってくれ、大いに好評でした。木工製品を製作している「FLAGS design」(府中市)に出品をお願いしたところ、素敵なデザインの作品を持ってきてくれ、青柳がオシャレ空間に変わりました。毎年天気が気になるのですが、晴れ男がいるせいか、雨で順延&中止になったことがなく、今年も、新たに作った垂れ幕が遠目から眩しいくらいの上天気に恵まれ、かき氷のコーナーでは、まだかまだかの行列ができていました。初めてのお客様はもちろん、毎年来て下さる常連さんとの一年越しの会話も、また良いものですね。「わっしょい祭りを今後も盛り上げていきたい」と、想いも新たにになりました。本当にありがとうございました!(坂本)

はじめの一步ハウス

一步ハウスの移転も段々と近づいてきました！新しく出来上がる自宅を楽しみにする方や、引っ越しの予定を気にしたりする方もいたりで期待に胸を膨らませています。たまにドライブなどで現在建築中の一步ハウスを皆で見に行くとまた気持ちが盛り上がりますね！新しくなる一步ハウスにも乞うご期待です！（白濱）

来歩ハウス

よりよい関係

環境の変化に合わせて、自分のよくない部分を、今よりよくしたいと考えています。歩人から来歩ハウスに異動して4ヶ月経ちました、周囲の人達に支えられて日々楽しく頑張っております。新しいスタッフが来て入居者さんの生活リズム等に変化がなければ幸いです。毎週のルーチンに含まれているプールなど普段から慣れている場所などで接したり行動することが多くなるように仕事をさせて頂いているので、入居者さんとのよりよい関係を早期に築けれ



昨夏の思い出、
名栗川パーベキュー場さつき（埼玉県飯能）

ばと思っております。焦っているわけでも自惚れているわけでもないですが、私個人との特別なやり取りが1つや2つあってもよいかと考えてしまう時があります。まずはこの時期の外出を任せてもらえるようになりたいと思っております。

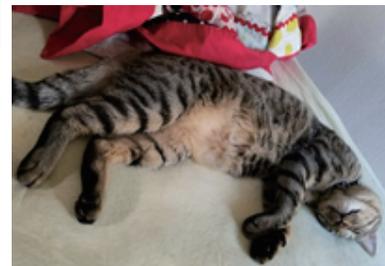
とりあえず、早く涼しくなってほしいです。（高木）

メソンド歩人

こんなに大きくなりました

昨年の8月に子猫（ナナ）が我が家に来たから1年が経とうとしています。一大イベントの「去勢」も終え（人間様の都合で申し訳ない）、大きくなりました。もう成猫（大人）です。家の中に何もできない、「ただただ生きているだけの動物がいる」というのは不思議と癒されるものだということを知りました。抜け毛をカーペットにまき散らし、物をかじっては破壊し、やりたい放題ですが、生まれてから1回も怒られることを知らず生きています。素直でとてもかわいらしい我が家の天使。できるだけ永い時間を共に過ごせるように、お互い健康に気遣い、夫婦仲良く、豆に掃除をします！これからもよろしく。

iFeliz cumple, Nana! お誕生日おめでとう!!（小野）



すうえる & とれいる

5周年に思う

早いもので5月で、すうえる、とれいるは5年を迎えました！私はスタートから関わらせてもらっていますが、この5年間の入居者6人の成長ぶりには驚かされます。スタート前は、今までと環境が変わることで順応できるのだろうか？等、心配されていましたが、いざ始まってみるとすぐに馴染み、私たちの心配をよそに楽しそうに生活を始めました。それからもう5年経ち、それぞれがそれぞれに成長し、自立している姿を近くで見ていると感慨深いものがあります。これから10年20年と無限に成長していく彼らのそばで、私たちスタッフも一緒に育っていきたくと思いました。これからも、すうえる、とれいるを、どうぞよろしくお願ひします!!（相馬）

山中湖ロードレース

5月に毎年の恒例行事「山中湖ロードレース」がありました。すうえる、とれいるの入居者の方も参加され、私も参加してきました。2回目の伴走でしたが今回も天候にも恵まれ、富士山や路上の観客の皆さんから応援されて入居者さんも楽しそうに参加されました。いつもと違う環境で体を動かし、会ったことのない人と出会うこの行事は、とても大切だと私は感じます。また来年参加する機会があるのならば参加しようと思ひます。（松原）



はじめまして。4月より正職員となり、とれいるで働いています寺島久美です。とれいるは、とても温かい家族のような職場だなと感じています。まだまだ半人前なところばかりで利用者さんとの関わりの中で、自分本位な関わり方をしてしまっているなと気づかされる場面が多々あります。利用者さんの笑顔を多く引き出し、居心地のいいグループホームを作っていけるよう頑張っていきますのでよろしくお願い致します。（寺島）

東京 YMAC 医療福祉専門学校 夏祭り 出店しました！



全力でやりました！！

毎年回を重ねるごとに充実してきた夏祭りの参加。地域への参加を謳うかいゆうにとっては大事なイベントです。今年はいきゆうでもフレッシュなエネルギーがみなぎっているお三方、くじらこの長田（麻）さん、広報委員でもある大関さん、そして事務方のアイドル三田さんが頑張ってくれました。



お天気にも恵まれ好スタート。工房の作品も単価が800円もする品物（がま口講師の橋本さんに創作協力をして頂きました）のある中、飛ぶように売れていきます。ストラックアウトも大人気。虫よけスプレーも好調。YMCAの学生さんが減って出店が少

ない中、お客さんの入りは上々です。

そんな中、ハプニング発生。なんと、わたあめ機が壊れていた！！前日の試運転では動くことだけを確認、わたあめは試作しませんでした。いざやってみると温まらず…。大関さんが分解し確認、部品が摩耗し破損していることが発覚。それでも直し直し、なんとか10数本つくりましたが機械がダウン。さあどうする？すぐさま売り場の配置換えをし、場面転換。そしてスタッフの団結も



さらに強まり、最後まで乗り切ることができました。わたあめ機の故障というハプニングを好転させ、さらに団結力のアップにつながられたのは日頃から鍛えられた判断力と、かいゆうスタッフならではの明るさでしょう。

この人かいゆうの人だ

お客さんや学生さんとの交流で、少しでもかいゆうが地域に浸透していけば良いなあ…。



かいゆうを覚えてもらいたい。かいゆう年表にも工夫を施して皆さんにわかりやすく展示。評判は上々でした。アルバイトさん、ボランティアさん募集のチラシも全て配り終え、かいゆうだより、リーフレット



とも手に取って下さる方いらっしやいました。笹を飾っての演出も好評でした。「夏のにおいがするね」なんて粋な言葉をかけてくれた方もいました。



～感想と反省～

毎年の恒例行事として続けるにあたり、やはり、くじら工房さんには、一緒にお祭りに参加して頂けたらなと感じました。商品の説明ができるスタッフさんがいて、隣に作った利用者さんがいて、お客さんと対面し、商品が売ることがさらなる創作意欲に繋がるのではないかと感じています。

そして備品のメンテナンスを怠らないこと。わたあめを楽しむにしていた皆さまには心よりお詫び申し上げます。ただ人員を考えるとわたあめがフル稼働していたら…、大変だったかもしれません（苦笑）。基盤ができてきたイベントだからこそ、これからも皆で盛り上げていきたいと感じています。お忙しい中、前日、当日にお手伝いして下さった皆さんには心から感謝しています！ありがとうございました！（小野）

※取材協力：長田（麻）さん



くじらっこでええやん!

以前から興味のある映画ではあったが、あらずじは敢えて把握せず上映会に参加した。オープニングテーマ曲が流れだす。SHINGOさんというアーティストの歌詞やメロディーに冒頭から心を奪われた。(心に強く入ってきた。)

実際、映画を見ていくと、知的にしょうがいがある子かな? ADHDの子かな? など感じられる登場人物も見られたが、生活困窮者だとかしょうがい児だとかいった呼称は見当たらなかった。誰もが悩みを抱え葛藤し、相手を知ろうと努めたり、反発したり、反省したり、自分を受け入れようとしたり、自分を見つめていくような作業であった(日常)。様々ではあるが決して一人ではないということ。違わないということ。この映画に出てくる誰もが物語の主人公であった。もちろん環境の一部である学校や家庭も。お互いがお互いの暮らし方を知る。生き方を知る。

「知ること」「知ろうとすること」「繋がっていること」はとても大切なことだと思った。改めて「感謝」という言葉が心に浮かんだ。

私が心を打たれた一つには、「こどもの里」がごちゃごちゃだったこと。雑然とした室内で野球をしていたり、異性であろうが異年齢であろうが、ごちゃごちゃ遊んで…叱られて、それを見ている子どもであったり、笑ったり、怒ったり、泣いたりしている。家庭ではその子等の親が、愛ゆえに子どもを責めて自分を責める。里を訪れて思いを吐き出し、また明日を迎える。24時間体制で其々に寄り添いながら子ども達と育む。地域の運動会やお祭りは、これまた素敵だった。省かれる人がいない。

丁度私は、放課後等デイサービスという制度の中の福祉事業に対し疑問を抱き、くじらっことしての在り方を模索していたところだった。というのも、くじらっこは幅広い年齢の異性と色とりどりの個性を持つ子ども達が其々の環境の中において壁を作らずに通っていい居場所としてスタートさせたからだ。しかし、この「居場所」というワードが引っかかるのだ。昨今の制度は「居場所」のとらえ方を歪め、

『さとにきたらええやん』とは…

大阪市西成区釜ヶ崎。“日雇い労働者の街”と呼ばれてきたこの地で1977年から40年にわたり活動を続ける「こどもの里」。“さと”と呼ばれるこの場所では0歳からおおむね20歳までの子どもを、障がいの有無や国籍の区別なく無料で受け入れている。地域の児童館として学校帰りに遊びに来る子や一時的に宿泊する子、様々な事情から親元を離れている子だけでなく、子どもの親たちも休息できる場として、それぞれの家庭の事情に寄り添いながら、貴重な地域の集い場として在り続けてきた。「こどもの里」を舞台に、時に悩み、立ち止まりながらも力強く成長していく子どもたちと、彼らを支える職員たちに密着し、子どもたちの心の揺れ動きを見つめながら、子どもも大人も抱えている「しんどさ」と格闘する人々の切実な姿を描き出したドキュメンタリー。(2015年、100分。監督・撮影 重江良樹)

くじらっこのような敢えてプログラムを持たずに、子ども達やその環境を含めた関わりの中での成長を応援している「居場所」が、既に何かの枠に押し込めようとしてきている。息苦しくて。また存続していくためには指定基準を満たすための要件がいくつもある。「療育」という名のもとに「訓練」の場所に変容されようとしている。

この状況が怖くて仕方がない。余暇の時間の過ごし方まで他人に決めつけられたくはない。放課後等デイサービスは「療育」の成果を発揮する場所であってほしいと願う。もちろん選択肢が増えたことは否定していない。感覚や考え方の違う子ども達が、都合で作られた「いい子」になるために、喧嘩もできない。失敗もしちゃダメ。思いっきり遊んでケガもしちゃいけない。そんな大人の都合で扱いやすい子どもの生産場所になってしまわないかと…不安を感じている。

手帳を持っていようが軽度であろうが重度であろうが、どんな環境に居ようが、一緒に過ごすことで互いのこと自分のことが見えてくる。遊びの中から、喧嘩をし、挑戦し多少のケガを負って、時に失敗を繰り返す、学び合うはずだと思っている。いろんな感情を抱き思考することで心も豊かになる。勝手な都合を押しつけられて、都合に合わない子どもは「悪い子」「できない子」のレッテルを貼られてしまうシステム。大人は、自分たちの都合に合わせて子どもを思い通りにさせようとしていることを、いいことをしていると勘違いし、支援または指導といった気づいたら虐待をしまっている。こんな筈ではなかったと後悔しても遅いのだ。子どもの成長には遊びは欠かせない。ごちゃまぜこそが社会のはずだ。分けちゃうのって…やはり誰かの都合だと。そこに本人が見当たらない。「お互い様」が築けない。

- …幅広い個性の集団活動は、容易ではない。
- …我慢してもらうこともある。
- …譲ってもらうこともある。
- …今のくじらっこは望まれた居場所になっていくのかな?

そんなこんなが頭の中でぐちゃぐちゃと占領していたのだが、『さとにきたらええやん』を見て、くじらっこでええやん!と思えた。時代と共に変化することはあるが、変わらない大切なものもある。昭和を思い出させる映画だった。思い思いのやりたいことや遊び方を自分で発見して発信する。一緒にいるから分かること。気づけることがある。寄り添うとはそういうこと。安心して子ども達と真剣に遊ぼうと思えた。(鍋島)



誰もが集えるみんなの居場所（10：30～18：30日祝休み）
日中一時支援事業（15：30～土日祝休み）

たまりば宙 （そら） Tel/Fax 042-843-0443

新しい仲間

日中一時支援事業が始まって2年目、新しい仲間が少しずつ増えています。グループホームでは、いつもスタッフの傍らから離れず、何かに一人で集中することがないというAさん。宙に初来所された日に、日本地図パズルを選び、取り組みました。時々周りの人と、おしゃべりしながら、ゆっくりとピースは埋まっています。帰宅時間が近づいて、少し手伝ってもらいながら完成。「わあ～！」と皆から歓声を浴び、遠慮がちな笑顔を見せてくれました。グループホームのスタッフさんにとっても嬉しい驚きだったようです。Aさんは来所のたび同じパズルをして、今は一人でも時間が余ってしまうほど速く完成させています。宙への通所をきっかけに、元々持っている力を発揮したようです。さて、次は何を楽しもうか、Aさんとスタッフで模索中です。



みんないい顔～オセロ大会～

利用者さんに人気の一つがオセロゲーム。何気ない会話から7月2日に「オセロ大会」を開催するこ

とになりました。実行委員はオセロ好きの利用者Sさん。Sさんを中心にして、スタッフも一緒に、開催日や対戦形式、景品を考え、参加者募集のチラシや賞状を皆で手作りし、当日を迎えました。一度に六試合できるよう、テーブルをセッティングし、宙はオセロ大会会場に早変わり。わくわくの緊張感が漂います。参加者は日中一時支援事業の利用者さん、たまりば宙のお客さん、お仕事帰りの方、そしてスタッフ。まさに、誰でも集えるみんなの居場所「たまりば」ならではの様々なメンバーです。Sさんによる開会宣言後、ゲーム開始。皆の表情は真剣そのもの。勝って喜び、負けて悔しがり…。皆がとてもいい顔をしていました。景品を狙っていた私は残念ながら1回戦退敗でした（T_T）（石井）

ふろしき教室

6月30日土曜日の午後、ふろしき王子こと横山功さんをお招きし、風呂敷の使い方を教わりました。定員を超える申し込みがあり、26名の参加者が一堂に会した宙は超満員。最初に基本の「真結び」の結び方と解き方を確認。それからショルダーバッグ、買い物バッグ、帽子、頭巾等々20通りもの結び方を教わりました。緊急時にも役立つ結び方や、日常生活において体に負担のかからない所作にも話は及び、楽しい1時間半はあっという間でした。（中西）



* 今日の一品 小松菜と厚揚げのナムル

材料
小松菜 1ワ (300g)
厚揚げ 1枚 (220g)
白ごま 大さじ2 (もしくは擦りごま)

- ・体に良いごまと鉄分豊富な小松菜を合わせたナムルです。厚揚げが入っているので食べごたえもあります。
- ・揃いやすい材料！
- ・出来上がってから少し時間をおくと味がなじみ、より美味しくなります。

赤とうがらし 1本【A】
ごま油 大さじ1
しょうゆ 大さじ1
みりん 小さじ1

塩 少々 (ゆでる時)

作り方

- ①小松菜は塩少々を入れたたっぷりの湯でサッとゆでて冷水にとり、水けを絞って3～4cm長さに切る。
- ②厚揚げは熱湯にくぐらせて油を抜き、縦半分に切ってから、1cm幅に切る。
- ③白ごまは包丁で粗く刻む。(擦りごま代用可)
赤とうがらしは種を除いて小口切りにする。
- ④③と【A】の調味料を混ぜ合わせ、①と②をあえる。

グループホーム
のごはん



短時間でできる！

【献立メモ】

- ★鉄分、カルシウム、マグネシウム等、心だん摂りにくい栄養素のたくさん入った献立です。
- ★小松菜に含まれる三価鉄は吸収しにくいので、吸収しやすい二価鉄にするために酢酸やビタミンCとともに摂取すると吸収率は倍以上になります。
- ★カルシウムやマグネシウムをたくさん含む厚揚げは、酢やレモンとともに摂ると効率よく吸収できます。
- ★パプリカやブロッコリー、トマト等ビタミンCの豊富な野菜サラダにドレッシングあおかけたものや、キュウリとしらすの酢の物を加えると、この献立がより生きてきます。

すうえる担当 三田さんによるレシピ

凄まじい治療風景

僕は最近、歯周病に悩まされている。従来の治療は、歯周病に関しては抜歯が主だ。そして、僕は地元の国立市内の歯医者へ通院し、歯周病の歯を抜いた。しかし近年は、抜歯せずに治療する歯医者も増えてきた。その歯医者グループを日本歯周病学会という。僕はこれを知り、この学会の歯医者をも自分の住まいの近くで探した。ところが、この学会の歯医者は、僕が脳性麻痺なので、診察してくれなかった。思えば、しょうがいしゃを治療する歯医者は、まだまだ少ないのが現実だ。その現実と、更に、ハードルの高い日本歯周病学会の医者に的を絞ると、脳性麻痺の僕を治療する医者は、居なかった。少なくとも、近隣では居ないのが、分かった。

そこでしかたなく、東京都新宿区の飯田橋のしょうがいしゃ専門の歯医者へと通院している。この歯科医療機関は、歯周病に対しては、症状に応じて、抜歯せずに、治療してくれた。しょうがいしゃ専門の都立の歯医者なので、そこでしか治療をできない、重度知的しょうがいや、重度の自閉症のしょうがいしゃが、たくさん治療のために来ている。もちろん重度身体しょうがいしゃも来ている。そこで、この病院内での治療風景は、とても騒がしい。重度の知的しょうがいの患者は、治療が怖い、痛い、なので、泣き叫びながら治療を受けている。医者と歯科助手、あるいは、ヘルパーは、そういう患者を相手に、一所懸命なだめながら励ましている。「だいじょうぶだから。痛くないから。がんばって。お願いだからじっとしてて」そう言われているしょうがいしゃは、「うんうん」と、返事はするものの、やっぱりダメで、今にも治療用の椅子から逃げ出そうとして、ジタバタしている。大声を出して泣き叫んでいる。

僕はその隣の席で治療していて、その状況は凄まじいものだと驚いていた。その騒ぎは治療室だけにとどまらず、待合室にも響いてくる。その時に、僕のヘルパーは、引きつった顔で呟いていた。「僕もいま、知的しょうがいのヘルパーの仕事に週に1回やっている。そうした仕事の中で、その知的しょうがいしゃに歯科治療を受けてもらうことがヘルパーとしてできるか？とても不安。だってこれ、見方によってはしょうがいしゃ虐待と見られてしまう。虐待と言われたらどうしよう。下手をすると保護者だってそう見る。どうしたものか」と、深く悩んでいた。

問われる関係性

この時に僕は、僕のヘルパーに言った。「そういう時こそ、ヘルパーとしょうがいしゃの関係性が問

われるよね。とりわけ、知的しょうがいしゃや、自閉症のしょうがいしゃは、関係性において難しいし、自信を持って、本人の歯の状態と、絶対に治療が必要な状態を受け止め、治療を受けてもらいたいということ、周りのヘルパーや関係者が言っているかどうか？それが深刻に問われると思う」それに対して僕のヘルパーは、頷きながら「そうなんですけど、いやあ、ヘルパーとしても本当にしょうがいしゃと向き合っつながりを作って、それに自信を持っていないと、そういう場面に耐えられないし、天野さん、逃げ出したくなるよ」と心情を述べていた。

僕は、知的しょうがいしゃと関わっているヘルパーや、知的しょうがいしゃのグループホームの職員たちとも知り合いが多い。その彼らが、共通の大きな悩みとして、いつも言ってくるのが、保護者との齟齬（そご）である。あるいは、保護者の意見を優先させるべき、という意見である。僕自身、保護者という親から離れて、長年地域で一人暮らしをしている。僕は重度の身体しょうがいしゃなので、それ以前は親の保護のもとに生活していた。そうすると、僕が生まれてから大人になるまで、親は僕の世話をしていたからこそ、親は自信を持って僕に対して、セーフティーネット、安全圏へと、僕を囲い込む。

僕はそれが鬱陶しいのと、親の深い配慮があり過ぎるので、世界がまるで広がらなかったし、自分としての生きる力が身につかなかった。それによる不安の方が大きかった。未知との体験や、それによって味わえる、開発される生きる力、自分の柔軟性が欲しかった。それが、保護者の存在によって結果として奪われていった。知的しょうがいしゃや自閉症のしょうがいしゃの場合、自分からそれを積極的に言えなかったりするし、そういう自分の客観状況は認識できない。それがたまたま、親以外の人間が関わることによって、しょうがいしゃ本人の世界が開けてきたり、自己変革が促されてゆく。そういう意味で、ヘルパーと、あるいは職員と、しょうがいしゃとの関係性は非常に意味と価値がある。したがって、ヘルパー、あるいは職員は、しょうがいしゃと向き合っ関係性を作る中で、自信を持ってしょうがいしゃの存在を引き受けてほしい。

(評議員 天野誠一郎)

編集後記 ◆西日本豪雨災害で被災した方へ心よりお見舞い申し上げます。私の学生時代の友人も被災した。幸い命に別状はなかったが避難時に腰を骨折した。家は流されなかつたが、何もかも土砂に埋まり、使い物にならな。家は取り壊すそうだ。赤十字等でも募金を集めているが、顔の見えない関係へ直接支援しようとして、同期の呼びかけで、お見舞金を届けることに。何をすればいいかわからない中、少しでも力になれたらと思う。(な)